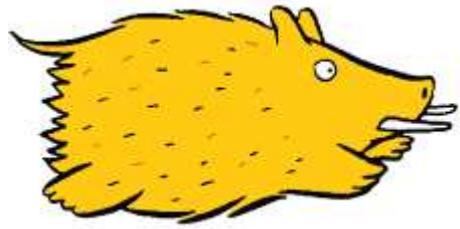




トマソン隊じゃないから



開港資料館いさん編 by うさお

前号でご案内いたしましたように、横浜開港資料館で「痛っ… 歯が痛い ー歯科医学の誕生と横浜ー」と称する展示があり、それにうさおや日出彦さんのおじいさん「歯科医師：益田廣袋」がコーナー展示されておりました。平成23年2月2日（水）～4月24日（日）でもう終わっちゃいましたが、招待券があったものですから3回も行っちゃいました。

まあ、Dokugakuにもご案内は入れさせて頂きましたが、私達ぐらいでしょうね、見に行ったのは・・・。

と言う訳で皆様方には嫌でもご紹介しちゃいましょう。

以前、トマソン隊「じいさん編」に記述したように、「おじいちゃん」の名前は、「益田 廣袋^{こうたい}」と言います。

「歯科醫事衛生史」に以下の記述があります。「益田廣袋は埼玉縣大里郡明戸村大字石塚の医師益田優昌の長男として慶應元年（一八六五年）三月一日に生れ、幼少の頃は同郡妻沼町歙喜院で修學した。其後、東京に出で、慶應義塾に學び、十九歳にして渡米した。時に明治十六年である。渡米後は医学修業したが、明治二十年六月即ち二十三歳にしてマサチュウセツ州ケンブリッジのハーヴァード大學齒科學部に入學し、同二十三年六月七日卒業、ドクトル・メヂチーネ・デンタリェーD.M.D.の學位を得た。同年十二月、同州の開業試験に合格し開業免状を授与された。」



妻子とともに



横浜開港資料館

如何にも明治の人で行動力のある人でしたね。うさおが若いときには、この「じいさん」に風貌が一番似ていると言われました。髭が濃いところがですけど、隔世遺伝でしょうか。剃刀の刃は一回で欠けて使い物になりません。私達の親父は九人兄弟のうちの五男坊で、歯科医師は末子の叔母が継ぎました。

今回横浜の開港資料館での展示に尽力をいただいたのが、歯科医師の大野肅英先生と羽坂勇司先生で、



石崎氏と Cacco

この叔母のところに横浜開港資料館の石崎主任調査研究員と3名で訪れ、今回の展示に「じいさん」を紹介したいこと、についてはエピソード、写真、遺物はないかと聞いたそうです。

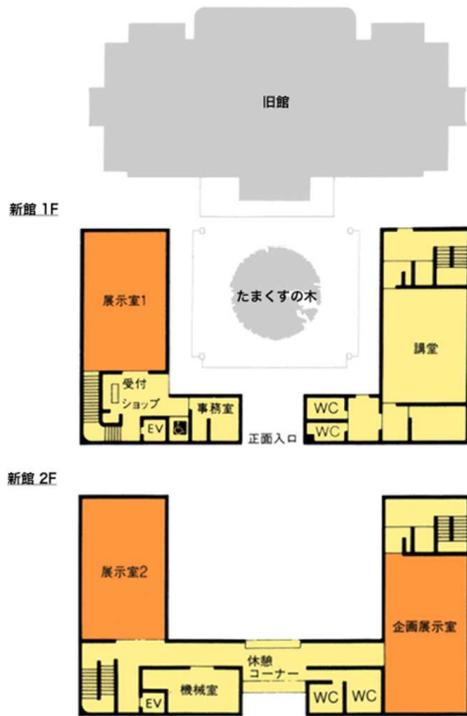
凄いな、「じいちゃん！」

(以前より親しみが込められており「ちゃん」付けです。)

横浜開港資料館は元は英国総領事館だったところで、その建物も英国領事館をレトロフィットして使っています。ここには「たまくす」や「獅子頭供用水道栓」などがありますが、これを記述するとこれだけで1編になっちゃいますのでまたの機会にいたします。(大体、こう書いた時にはまたの機会なんて無いんですけどね。)

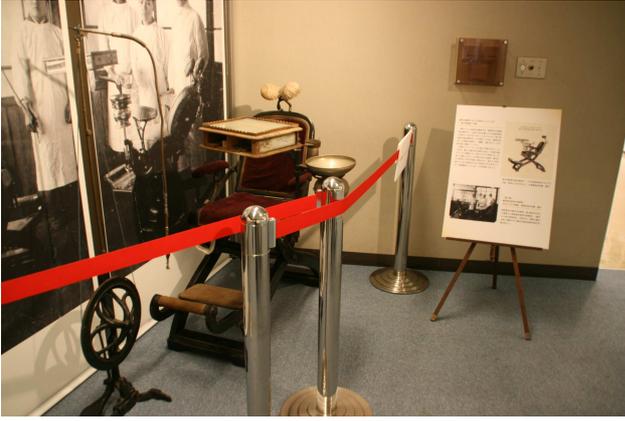
2日目の日曜日に行って見ました。二階の企画展示室で行われているとのこと、こんな風のアプローチになっていました。案内を請うていましたので、石崎さんが現れ私達を案内してくれます。神妙に聞いているCacco。

本日は大野先生と羽坂先生もいらっしゃっているとのこと、ご挨拶をさせていただきました。この展示に際して「じいちゃん」の使っていた治療器具は無いかと言う依頼が叔母にあり、倅と共に診療室に行き骨董品の器具を探し出し、大野先生のところにお持ちした経緯があります。うちの倅も幼い時に矯正歯科で大野先生のところに通っていました。う〜ん、でもぜんぜん覚えられていませんでした。(…でしょうね。)



羽坂先生(左)と大野先生(右)





上の記述はエリオットと小幡英之助の紹介文献。

エリオットは日本に溶け込んだ歯科医師の一人です。患者に木戸孝允がいました。日本人の弟子も多く、小幡英之助もその一人です。当時の「醫術開業試験」の文献が残っていました。

石崎さんをお願いして館内の写真を取らせて頂くことにしました。体の不自由な叔母は開港資料館に来れませんので、せめて映像で見せることにしました。それに「トマソン隊」の資料にもなりますしね。(つて、それが目的だったんじゃないのか、うさお！)

「じいちゃん」の展示に行き着くまで、暫し展示物をご覧ください。

えへへへ…この映像はDokugakuの限られたメンバーのみの閲覧止まりとさせていただきます。(出版なんかには使う時は、映像1枚に着き1000円の著作権料を払うことになるようです。と言う断りを入れておけば、うさおはとりあえず誠実に動いたと言うことで…

ずるいなあ、うさおは…)

上段の機械は、動力は足踏み型のもので歯を削るバイトが回転する装置がついた治療椅子。機能的には今のものとほとんど変わりがないです。

頭を支えるヘッドレスト、薬、治療器具を置く台、嗽水を吐き出す盆など全てのものが付いています。

今のものはそれらに油圧・電動、コンピュータ制御という改良が施されています。

江戸時代からある柘植で出来た入れ歯、だが…口の中にこれだけのものがあると、大きすぎて違和感は確実にあるだろうね。

美味しく頂けるのだろうか。昨今、黄金が使われるのは、無味無臭、腐食しない、多少の変形を許すつて事らしいですが、見た目、プラチナのほうが品が良いね。セラミック系のポーセリンという商品もあるということだが、強度的には強すぎる。骨ががたがたになっても入れ歯はびくともしない。





さて、「おじいちゃん」のコーナーです。
あれっ、「益田 ^{こうたい} 廣岱」じゃない、当用漢字だ。「岱」はそのまま使っているようですが、「じいちゃん」じゃないように思える。



説明には、「益田広岱(1865－1932)
益田広岱は、慶応元年、武蔵国幡羅郡明戸村(埼玉県深谷市)の医師・益田優昌の長男に生まれた。慶應義塾で学び、明治16(1883)年、19歳で渡米、翌年よりハーバード大学歯学部に入學した。明治23(1890)年に卒業し、米国の開業免許を取得し、明治26(1893)年に帰国 同年、内務省歯科医術師業免許状を得ている。横浜市境町で開業し、米国東洋艦隊臨時歯科医なども努めた。関東大震災で境町の自宅兼診療所を失い、神奈川区区安町に歯科医院を開設した。昭和7年1月68歳で死去。」

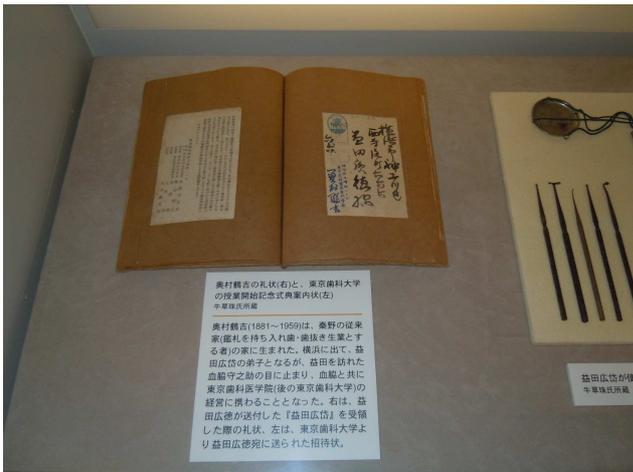


幡羅郡(はたらぐん)、橘樹郡(たちばなぐん)などと昔の地名は読み難くていけません。幡羅は昔は原と書いたって、そっちのほうが読みいいじゃん。橘樹は川崎の地におとちばなひめに弟橘媛の御陵とされる富士見台古墳があるためと言われてます。今の人は倭建命(やまとたけるみこと)なんて誰も知ら無いよね。



大禮服の「じいちゃん」の説明には、「横浜真砂町の鈴木真一写真館で撮影された。益田広岱39歳当時の写真。明治36年、広岱は正七位の叙勲をされているが、その際に撮影されたものか・・・」の説明があります。宮中に参賀したときに、金杯と木杯を賜った叔母は言っていたが、時代の波に押されて、今は両方とも亡くなってしまったとか・・・。

長男だった廣徳叔父さんは、一度は医師を目指しましたが血を見るのが駄目な人だったようで、今の横浜銀行に勤めてしまします。



歯磨きの宣伝に、田河水泡や倉金とらお、杉浦茂らが漫画を描いていました。連作ものです。

代わりに銀行に就職したばかりの末妹が、途中から医師の勉強をして「じいちゃん」の跡を継ぎました。しかし、気の弱い廣徳叔父さんでしたが、性格的にはまめな人だったようで「じいちゃん」の足跡を残す努力をしています。今、この遺品があるのは、この叔父さんのおかげです。

うさおの家系で書画、骨董、掛け軸などに興味を持っていたのは、この叔父さんだけでしたね。

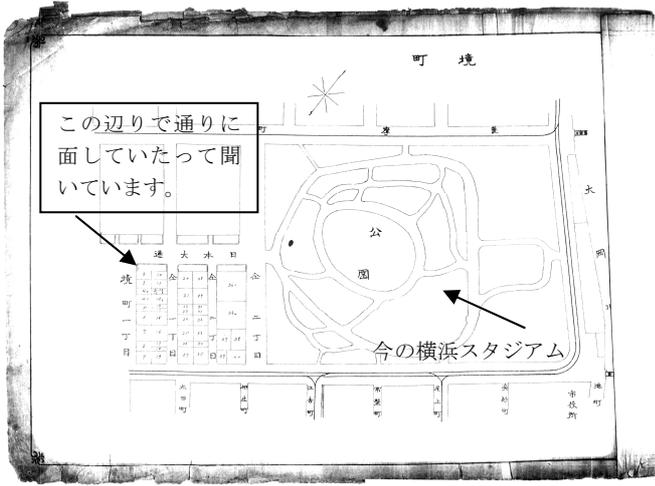
さて、次は診療室にあった秤と治療器具等…。

うちの倅がずいぶん長い間、叔母の家に住んでいました。叔母が病に倒れ介護付き老人ホームに入っている間も住んでいました。

その倅と診療室を探し、「じいちゃん」の遺品を見つけました。診療器具は何だか、600本くらい出てきます。え～、どれがポストンで使っていた器具なんだか…、メーカーの刻印別に分類して見ました。

日本のものより細身だと言うのが手掛かりです。そうすることでこの5本が探せました。(嘘です、よく判らないので150本くらい大野先生のところに持ってちやいました。うさおに鑑定士は無理です。秤もレトロなものがあつたので持ってちやいました。まあ、こんなもんでしょう…。)





町		境		町 番 目	地 番	地 積	地 価	地 主	地 主 氏 名
1	2	1	2						
1	1	1	1						
1	2	1	2						
1	3	1	3						
1	4	1	4						
1	5	1	5						
1	6	1	6						
1	7	1	7						
1	8	1	8						
1	9	1	9						
1	10	1	10						
1	11	1	11						
1	12	1	12						
1	13	1	13						
1	14	1	14						
1	15	1	15						
1	16	1	16						
1	17	1	17						
1	18	1	18						
1	19	1	19						
1	20	1	20						
1	21	1	21						
1	22	1	22						
1	23	1	23						
1	24	1	24						
1	25	1	25						
1	26	1	26						
1	27	1	27						
1	28	1	28						
1	29	1	29						
1	30	1	30						
1	31	1	31						
1	32	1	32						
1	33	1	33						
1	34	1	34						
1	35	1	35						
1	36	1	36						
1	37	1	37						
1	38	1	38						
1	39	1	39						
1	40	1	40						
1	41	1	41						
1	42	1	42						
1	43	1	43						
1	44	1	44						
1	45	1	45						
1	46	1	46						
1	47	1	47						
1	48	1	48						
1	49	1	49						
1	50	1	50						
1	51	1	51						
1	52	1	52						
1	53	1	53						
1	54	1	54						
1	55	1	55						
1	56	1	56						
1	57	1	57						
1	58	1	58						
1	59	1	59						
1	60	1	60						
1	61	1	61						
1	62	1	62						
1	63	1	63						
1	64	1	64						
1	65	1	65						
1	66	1	66						
1	67	1	67						
1	68	1	68						
1	69	1	69						
1	70	1	70						
1	71	1	71						
1	72	1	72						
1	73	1	73						
1	74	1	74						
1	75	1	75						
1	76	1	76						
1	77	1	77						
1	78	1	78						
1	79	1	79						
1	80	1	80						
1	81	1	81						
1	82	1	82						
1	83	1	83						
1	84	1	84						
1	85	1	85						
1	86	1	86						
1	87	1	87						
1	88	1	88						
1	89	1	89						
1	90	1	90						
1	91	1	91						
1	92	1	92						
1	93	1	93						
1	94	1	94						
1	95	1	95						
1	96	1	96						
1	97	1	97						
1	98	1	98						
1	99	1	99						
1	100	1	100						

になった地域ですので、元の建物で残ったものは無いようですから・・・。

日本銀行横浜支店は白亜のビルで低層2階建てです。中に金塊でも積んであるのでしょうか。

「じいちゃん」は関内の日本大通境町に住んでいました。朝日新聞の社屋の斜めはすかいの一等地で日本大通りに面していたと言うので、この辺りでしょうか？木造二階建て洋館で相当広がったと言います。その当時の地図と住所表示を見ましたが「じいちゃん」の名前は載っていません。

借地住いだったとも聞いていますので、残念ながら記述がありません。茂木惣兵衛(野澤屋創始者)さんなんかは、頻繁にこの地番に出てきますので、大家さんに借りていたのでしょうか。

今は日本銀行横浜支社の辺りでしょうか。隣の茶色いビルは二筋目ですから、日本銀行の入口辺りがそうでしょう。なにしろ関東大震災で壊滅的





待ち合わせをして出かけました。

講演内容は以下の通り。

江戸・明治期の歯科事情／大野肅英

(「歯の博物館」館長)

横浜居留地と西洋歯科医学／羽坂勇司

(「歯の博物館」学術特別委員)

講演は面白く聞けました。ご自身の職業に絡んだ趣味の蒐集のお話で、おたくっぽく熱弁されておりました。嬉しいことに、羽坂先生のご発表の中に「じいちゃん」

大野先生と羽坂先生の展示記念講演に行ってきました。横浜開港資料館の企画展示の「歯が痛い、歯科医学の誕生と横浜」にあわせて、3月13日に横浜開港記念館講堂で行われたものです。

3月11日が東日本大震災で余震が連日の如く襲ってくる状態でしたし、計画停電などで電車の運行はどのようなよって感じてでしたが、無事行われました。本来80名からの応募があったのですが、その三分の一くらいの出席者でした。日出彦さんと



の名前がさりげなく語られておりました。歴史には無縁の私達かと思っていたので、何となく嬉しい。

数日後、先生方の著書「目で見ると日本と西洋の歯に関する歴史 その2」が送られてきました。何と14,700円の超美麗本、今回講演された内容が載っていました。え～、残念ですが、「じいちゃん」は載っていませんでした。私たちが応募したことを知って先生方が講演内容に入れてくださったに違いありません。

この講演会の後、3月15日から3月18日まで地震のために横浜開港資料館は休館したんですって…。確かに余震は大きかったからなあ。





初日に神奈川県庁旧館前を通ったら、
時ならぬパトカーと夥しい人数が右往
左往と・・・すわっ、事件だと駆けていくと、
何か変です。

桜の花の模造品を持った人が、それをカメ
ラの前にかざしています。



神奈川県庁ではなく、違う銘版が
門に掛かっています。

「大阪県警」のパトカー？
(パトカーのナンバーが「なにわ」です)
何かのTVドラマの撮影現場でした。知
っている俳優さんはいないのかな？

大阪のドラマは横浜なんかでロケ撮影
するんだな。

